

6. 研究・教育環境

6.1 研究費：平成12～13年度(2000～2001年度)の状況

第2章では、研究所全体の各研究費の予算概況を一括して示したが、ここでは主要な研究所経費である特別事業費、共同研究費などについて具体的に示す。

特別事業費の研究題目および配分額を附表6.1に示す。

特定共同研究の研究担当者、プロジェクト名および配分額を附表6.2に示す。

一般共同研究の研究担当者、研究課題および配分額を附表6.3に示す。

研究集会(特定)の代表者、研究集会名、配分額などを附表6.4に示す。

研究集会(一般)の代表者、研究集会名、配分額を附表6.5に示す。

リーダーシップ支援経費の配分内訳を附表6.6示す。

6.2 科研費・公募研究費

第2章にも示されるように科研費などが研究活動の活発化を支えている。ここでは科研費の平成12～13年度の新規申請と採択状況を附表6.7に、最近2年間の科学研究費補助金の採択課題(新規・分担)を附表6.8に示す。申請数は教官一人当たり約0.8件で、採択率は25%前後である。研究分担を数多く行っている教官も見受けられるが、平成10、11年に比べ申請数、採択率ともに低下傾向にあり、今後の改善が期待される。

財団などによる公募研究費の採択課題を附表6.9に示す。

6.3 研究設備

本研究所では、実験・観測のための大型設備をはじめとする多数の設備が稼働している。附表6.10に設備の一覧を示す。これらの大型研究設備等を用いた最近の共同研究の一覧を附表6.11

に示した。研究成果については第7章「研究活動」及び研究業績を参照していただきたい。

設備の中には20年以上経過しているものもあり、当時は最先端のものであったとしても各種技術が急速に進展している現在においては必ずしも最新鋭の分析能力があるわけではない。本所においては災害の多様化に応じた高知能化した装置の要求をすすめている。

6.4 図書室

当研究所は平成11年度までは正規の図書室はなく、資料室をもって図書室と通称していたが、平成12年4月の宇治地区の事務統合に呼応して、図書業務も一元化され、所蔵の共同利用図書、定期購読和洋雑誌、および寄贈資料(図書を含む)等々の移動と宇治分館の改修工事を終了した平成12年9月に京都大学附属図書館宇治分館に完全統合された。

統合後の平成12年度、13年度の共通経費による外国雑誌の総額は各々8,161,775円(92タイトル)、8,195,655円(98タイトル)であり、国内雑誌の総額は各々827,119円(54タイトル)、894,879円(56タイトル)であった。平成12・13年度の図書室利用状況を附表6.12に示す。

6.5 情報システム

京都大学では平成7年度にATM高速情報ネットワークシステム(KUINS-II/ATM)が導入され、平成9年度からは宇治キャンパス―吉田本学間の通信速度が1.8GBPS×2へ改善された。このKUINS-II/ATMの利用に関しては、平成9年度に、各ハブノードにATM専用ルータ、各研究分野・領域にスイッチングハブを導入し、100baseのネットワークを構築した。さらに、平成14年度には安全なギガビットネットワークシステム(KUINS-III)が導入され、プライベートアドレス

を用いた学外からは見えないネットワークが構築され、平成 15 年 1 月からのネットワーク有料化を契機に多くの機器が KUINS-III に移行した。

また、遠隔研究支援システムの導入により、宇治―吉田間の中規模テレビ会議が可能となった。更に、平成 8 年 10 月から運用が開始された、スペース・コラボレーション・システム(SCS)事業により、「衛星通信による映像交換を中心とした大学間ネットワーク」の局が宇治に設けられ、大学間での講義、研究会、講演会等に広く利用されている。

このような情報ネットワーク化が進むにつれて、電子メールなどの通信だけでなくホームページなどを用いた情報発信が急速に進展している。特に自然災害調査研究などの速報性のある情報を研究所のホームページに掲載することによって、研究者間の情報交換のみならず、広く一般への情報公開、減災のための啓発等につながる情報発信の新たな手段として、活用されつつある。

一方、不正アクセス問題は年々深刻化している。この対策として導入された KUINS-III は一定の効果を上げているが、完全な防御にはなっていない。KUINS-II に残されたサーバ類は今後さらにセキュリティ対策を強化する必要があり、組織的な対策の導入を検討する時期にきている。ネットワーク有料化に伴い宇治地区に常駐する計画であった人員は、予算的な問題として平成 15 年度には配置されないことが決まっており、今後、宇治地区全体の要望としてネットワーク管理をする常駐 SE の実現を学術情報メディアセンター(KUINS)に要請していく必要がある。

6.6 データベース

本研究所には自然災害に関係する数々のデータベースが構築されている。これらをまとめて附表 6.13 に示す。

6.7 研究支援組織

本研究所における最近 2 年間の研究支援組織の人員について附表 6.14 にまとめて示す。これらの研究支援の人員は、本研究所で行われている実験・観測、大型設備の維持管理、及び研究補助に不可欠である。

6.8 技術室

平成 12 年度より技術室職員の業務実績と効率化の資料に資するべく業務報告を提出することが義務づけられ、これにより技術職員個々の業務内容の把握と適正化、効率化に向けた施策が取れるようになった。平成 13 年度からは技術室用に南北棟 1 階に 4 スパンの居室を新たに確保し、宇治勤務の技術職員全員の机と遠隔地観測所勤務の職員用の机 2 つを用意し、宇治勤務の技官は毎朝一度は立ち寄り各職場へ赴く体制をとることにした。

平成 12 年度までの技術室運営委員会の構成は教授 1 名、助教授 5 人助手 1 及び班長以上の合計 11 人であったが、教授 7 名と技術室から 2 名の合計 9 名の構成で全所員への技術室運営の理解を深める体制になった。また、毎月の業務報告の内容を第三者にも理解できるように数値化することを試み改善の努力を継続的におこなっている。これは、技術力を客観的に評価するためのデータにもなり、若返りをはかりつつある技術室にとって、情報を共有し若い世代に技術伝承していくためにも貴重な資料となっている。

平成 14 年度は、6 名もの定年退職者があり定員削減もあったが、28 年ぶりに若手の技官を 3 人採用することができた。近年の応募者の学歴は高く、修士号取得者で国家公務員試験第二種合格者が対象になっているため、技術室の役割を高度な支援技術ができるように変えていく必要がある。1 人は本学総合人間学部から異動し、あと 2 人は大学院修士卒である。ここ 2~3 年は複数の

研究分野に技術対応できるために各部門センターの業務を受けながら研修期間として技術力を身につける方法を採用している。平成 15 年度には 2 名の定年退職者が予定されており、幸いに定員削減割り当てがなく、新たな採用予定に機械分野 1 名、電子情報分野で 1 名の計 2 人を内定できた。技官総数 27 名中若手が 5 人となる予定である。さらに充実した技術支援組織へと強化するつもりである。

地震予知研究センターが管理していた工作室は防災研究所の工作室となり、技術室がその維持管理をすることになった。前任者が定年になったため、午後のみ新人の専任者を常駐させ、機械・電気工作から技術相談・指導及び工具類の貸し出し管理をしている。

技術室の技術力向上には研修が最も有効である。このため、毎年できうる限りの研修(京大総合技術部研修、近畿地区専門職員研修、東大地震研究所職員研修、全国技術研究会)に参加してきたが、もっと頻繁に勉強するため技術室のセミナーを新しい試みとして企画した。技術情報などの交換会として例会を開き、基本コースと専門コースとに分けた方法で勉強会を開催した。参加の呼びかけは所員全体に電子メールなどでおこなっている。基本コースでは、近年のパソコンの普及と高機能化したアプリケーションを使いこなす技能を取得するためにパソコン管理技術を含めた DTP セミナーを開いた。専門コースでは新人が新しい技術のテーマを挙げて勉強会を毎月 2 回おこなってきた。これにより、技術力の停滞を防ぎ、より高度の技術力のある組織を目指している。今後も続けていく予定である。

所内に新規のプロジェクトが発足した場合に、既存の職場で活躍している技官の時間を集中して割く訳にはいかず技術室からの参加支援がしにくかったが、新人が 3 人増えたことにより対応が可能となった。今年度は次の 2 つのプロジェクトに参加できた。一つは、宇治川水理実験所での市街地氾濫模型実験(振興調整費)である。参加は

8 月から準備と実験を 6 名が担当し、延べ日数 180 日を越えた。その成果を本研究所研究発表講演会で発表した。来年度も継続する予定である。もう一つは、21 世紀 COE 研究分担課題に技術室からの「防災研究所で蓄積された印刷物や映像情報の電子ファイル化とホームページで高速検索可能なシステムの構築」テーマを申請し幸いにして採用された。平成 15 年 1 月からアルバイト 6 名を雇用して電子ファイル化作業を行っている。平成 15 年度には防災研究所年報の既刊 20 年分の処理を予定している。

本来の日常業務の一つに、メールサーバやホームページサーバの管理に伴う新規登録や更新作業がある。近年では悪意ある侵入者の防衛とウイルス対策でネットワークを安全に運営するためのセキュリティ管理も重要である。セキュリティ管理技術はこれで万全というものはなく、新たなウイルス攻撃が防御対策に先行するため、常に対応技術を更新していかなければならない面があり、見えない部分での技術支援である。前述した出版物をホームページに掲載することは便利になるが、利用が増えるほど悪意ある侵入や間違い操作によるシステムダウンの危険率が増加する。このため後手にならないような工夫だけでなく被害拡大を迅速に防ぎ修復する技術力も必要である。

今後防災研究所からの発信情報がますます増加する方向である。技術室としても最新ウイルス情報やセキュリティ管理技術を常に取り入れ、確実安全に広報できる管理運営組織を目指している。

6.9 遠隔地施設の研究環境

本研究所には災害観測のために遠隔地施設を保有しているが、研究の高度化に従って観測項目が複雑多様化し、定常観測項目が増加してきている。一方で、遠隔地観測所の無人化がすすめられ、有人の観測所においても多くの遠隔地観測所においては、これらの業務を 1~2 名の職員で処理

しなければならない。そのため、遠隔地観測所勤務の職員の労働は年々過重なものとなってきた。観測施設の維持・点検とデータ取得のためには、坑道内の作業や海上作業、噴火危険区域での作業など、危険を伴う作業を余儀なくされることもあり、1名～少人数での業務には問題がある。附表 6. 15 に遠隔地施設の人員配置を掲載した。

6. 10 教育設備

大学院重点化により本研究所において指導をうける学生数が増加した現状において、本研究所の教育環境は、学生用研究室、講義室、教育用事務経費、教育担当事務員が十分に手当されていない点において問題がある。特に平成 14 年度からは 21 世紀 COE プログラムがスタートし、研究員の受け入れもすすめられるため、研究室環境はなお深刻となってきた。平成 12 年度からの大学院生の在籍者数は第 5 章の表 5. 2. 3 に掲載されており、大学院重点化以降の在籍者数は修士課程、博士後期課程合わせて約 150 名であり、平成 14 年度には 170 名強に達した。また、これも年々増加傾向にある留学生の受け入れに関して、照会に対する回答、受け入れ、宿舎、アパート探し、奨学金の申請などの事務的作業を実質的に教官が行わなければならないのが現状である。来日して日本の生活になれるまでの期間における住居などの問題については、国際交流会館おうばく分館が建てられ、いくぶんかは緩和されたが、今後の受け入れ留学生の増加に対するの対策を考える必要がある。

附表6.1 特別事業費配分一覧

平成12年防災研経費

部門	研究題目	配分類 (単位：千円)				備考
		職員旅費	研究員等旅費	校費	合計	
総合防災研究部門	災害に対する「都市診断」科学の確率のための総合的研究	1,710	1,850	3,170	6,730	
地震災害研究部門	建造物のヘルスマニタリング技術と補助技術の開発	1,340	1,550	3,565	6,455	
地盤災害研究部門	地盤災害メカニズムに関する研究	1,710	1,900	3,400	7,010	
	文化遺産地区における岩盤崩落前兆現象の観測と災害予測	610	680	1,800	3,090	
水災害研究部門	流域一貫した総合型水象シミュレーションシステムの構築	1,220	1,270	3,800	6,290	
大気災害研究部門	メガ・シティの拡大に伴う大気環境の変化	1,100	820	3,140	5,060	
災害観測実験センター	災害環境の総合観測に関する研究	1,159	460	2,162	3,781	
	地震動に伴う海岸流出・海底地すべり災害に関する研究	340	270	2,760	3,370	
地震予知研究センター	南海地震の予測に向けた西南日本テクトニック数値モデルの構築	0	0	2,880	2,880	
火山活動研究センター	薩摩硫黄島・口永良部島の火山活動及び周辺地殻変動の評価に関する調査研究	1,700	1,090	1,480	4,270	
水資源研究センター		0	0	0	0	
巨大災害研究センター	住民の防災啓発と行政の災害対応能力向上に関する研究	820	3,524	3,080	7,424	
小計		11,709	13,414	31,237	56,360	
技術室		1,830	0	510	2,340	
事務部	研究費等旅費は備考3施設の運営協議会用	864	988	2,389	4,241	災害観測、火山活動 巨大災害
所長管理経費		0	0	0	0	
合計		14,403	14,402	34,136	62,941	

平成13年防災研経費

部門	研究題目	配分額 (単位：千円)				備 考
		職員旅費	研究員等旅費	校費	合計	
総合防災研究部門	災害に対する「都市診断」科学の確率のための総合的研究	1,456	1,809	2,756	6,021	
地震災害研究部門	三次元広域地震観測システムを用いた宇治地区危険度解析	1,359	1,617	3,226	6,202	
地盤災害研究部門	地盤災害メカニズムに関する研究	1,339	1,503	2,713	5,555	
	ペルー国マチュピチュ遺跡の岩盤地すべり災害予測	835	953	2,090	3,878	
水災害研究部門	統合型水象シミュレーションの基づくハザードマップ高度化	1,159	1,273	3,134	5,566	
大気災害研究部門	都市域における大気災害と環境変化の予測と制御	1,087	900	2,738	4,725	
災害観測実験センター	災害環境の総合的観測・実験に関する研究	1,068	510	2,100	3,678	
	都市域における大規模宅地盛土斜面の地震時安定性評価	420	300	2,536	3,256	
地震予知研究センター	山崎断層域の地震発生に関連する地下水変動の観測・解析	325	0	1,142	1,467	
	鳥取県西部地震震源域における地殻深部比抵抗構造の不均質性に関する研究	385	0	2,113	2,498	
火山活動研究センター	水蒸気爆発の発生機構に関する研究	1,539	1,299	1,898	4,736	
水資源研究センター	総合流域管理に向けての水分・水資源・経済データベースの作成と持続可能な水資源政策支援システムの構築	0	0	2,000	2,000	
巨大災害研究センター	防災研究成果のアカウントビリティ向上の実践的展開	769	2,535	2,443	5,747	
小 計		11,741	12,699	30,889	55,329	
技術室		1,798	0	506	2,304	
事務部	研究員等旅費は備考3施設の運営協議会用	0	1,703	350	2,053	災害観測、火山活動 巨大災害
所長管理経費		0	0	0	0	
合 計		13,539	14,402	31,745	59,686	

附表6.2 特定共同研究

課題番号	研究課題(プロジェクト)名	研究代表者	所内担当者	年度	研究員等旅費(円)	校費(円)	参加人数
11P-1	防災投資の費用便益分析法の課題と展望	多々納裕一	岡田憲夫、 亀田弘行、 萩原良巳	11	700,000	520,000	16
				12	700,000	500,000	
				計	1,400,000	1,020,000	
11P-2	豪雨による都市水害モデルの開発とその治水計画への応用	井上和也	中川 一、 戸田圭一、 立川康人	11	630,000	400,000	16
				12	630,000	400,000	
				計	1,260,000	800,000	
11P-3	局地的強風の全国的な調査研究	石川裕彦	植田洋匡、 桂 順治	11	700,000	600,000	20
				12	700,000	600,000	
				計	1,400,000	1,200,000	
12P-1	実験・観測・シミュレーションによる洪水時の河口部における流れの構造と底質の移動機構に関する研究	今本博健	関口秀雄、 山下隆男、 馬場康之、 加藤 茂	12	700,000	400,000	12
				13	700,000	400,000	
				計	1,400,000	800,000	
12P-2	災害監視・解析のためのリモートセンシングの応用に関する研究	寶 馨	立川康人、 戸田圭一、 間瀬 肇、 中川 一、	12	700,000	400,000	6
				13	700,000	400,000	
				計	1,400,000	800,000	
12P-3	重力流ダイナミクスモデルと暴風雨、火砕流予測への応用	植田洋匡	石川裕彦、 林 泰一、 丸山 敬、 石原和弘	12	700,000	400,000	23
				13	700,000	400,000	
				計	1,400,000	800,000	
13p-1	防災のためのデジタル・ミュージアムの構築	林 春男		13	860,000	530,000	14
				14	670,000	520,000	
				計	1,530,000	1,050,000	
13p-2	南海トラフと中央構造線における歪配分の解明に関する研究	関口秀雄	橋本 学、 大谷文夫	13	940,000	470,000	11
				14	730,000	480,000	
				計	1,670,000	950,000	
14P-1	耐震基準統合化に対するわが国の戦略と基盤整備	中島正愛	吹田啓一郎	14	710,000	490,000	13
				15			
				計	710,000	490,000	
14P-2	都市域における氾濫災害危険度評価法の研究開発	高山知司	間瀬 肇、 中川 一、 戸田圭一、 吉岡 洋	14	690,000	510,000	15
				15			
				計	690,000	510,000	

附表6.3 一般共同研究

課題番号	研究課題(プロジェクト)名	研究代表者	所内担当者	年度	研究員等旅費	校費	参加数
12G-1	超稠密地殻変動観測網による火山体圧力源の解明	木股文昭(名古屋大学大学院理学研究科)	石原和弘	12	890,000	420,000	14
12G-2	淀川流域における自然-人間系洪水流出現象の共同集中観測と予測モデル開発	椎葉充晴(京都大学大学院工学研究科)	寶 馨	12	320,000	360,000	17
12G-3	都市域及びその周辺のバックグラウンド大気微量成分の動態解明	福山 薫(三重大学生物資源学部)	岩嶋樹也	12	840,000	710,000	5
12G-4	リモートセンシングと多種の観測法を用いた落葉広葉樹林の微気象と蒸発散量の季節変化に関する研究	戎 信宏(愛媛大学農学部)	田中賢治	12	760,000	650,000	7
12G-5	飛騨山脈周辺における応力場と内陸大地震に関する研究	川崎一朗(富山大学理学部)	伊藤 潔	12	780,000	650,000	6
12G-6	内陸地震の震源断層周辺の地震活動履歴解明	西田良平(鳥取大学工学部)	渡辺邦彦	12	520,000	260,000	7
12G-7	大気-海洋循環系モデルにおける波浪の影響に関する研究	安田孝志(岐阜大学大学院工学研究科)	加藤 茂	12	720,000	600,000	5
12G-8	流動性崩壊の発生・運動機構の研究	佐々恭二(京大防災研究所)		12	700,000	600,000	23
12G-9	山地斜面、河川系、湖沼、海洋を通じての物質輸送に関する環境・防災科学的研究	奥西一夫(京大防災研究所)		12	610,000	530,000	7
12G-10	人間活動に伴う地下水環境への影響に関する研究	杉尾 哲(宮崎大学工学部)	岡 太郎	12	560,000	440,000	10
12G-11	絶対重力計相対重力計の併用による、桜島の火山活動に伴う山体内部の密度変化の検出	大久保修平(東大地震研究所)	山本圭吾	12	210,000	240,000	7
12G-12	平常時および災害時の緊急用水としての雨水・都市雑排水の利用可能性に関する調査研究	城戸由能(京都大学防災研究所)		12	390,000	500,000	3
12G-13	鬼界カルデラのマグマ溜りとその探査法に関する基礎的研究	松島喜雄(工業技術院地質調査所)	井口正人	12	550,000	410,000	7
12G-14	地形改変がある場合の地すべりの挙動とその土塊の変形について	海堀正博(広島大学総合科学部)	末峯 章	12	580,000	560,000	6
12G-15	熱・水収支観測の高精度評価に関する研究	玉川一郎(岐阜大学工学部)	林 泰一	12	500,000	360,000	4
12G-16	盆地における局地循環と霧発生との関連	田中正昭(京大防災研究所)		12	720,000	500,000	13
12G-17	日本上陸前後の台風の構造に関する研究	内藤玄一(防衛大学校応用科学群地球海洋学科)	林 泰一	12	600,000	380,000	9
12G-18	ドップラーソーダを用いた海陸風の動態と性状に関する観測的研究	岩田 徹(岡山大学環境理工学部)	林 泰一	12	600,000	500,000	9
13G-01	平常時及び非常時における消火用水を考慮した下水処理水の河川還元再利用に関する基礎的研究	保野健治郎(日本上下水道設計株式会社 都市環境研究所)	池淵周一	13	3,000,000	350,000	7
				14	280,000	390,000	
13G-02	2000年鳥取県西部地震周辺の空白域の検証	西田良平(鳥取大学工学部)	梅田康弘	13	950,000	600,000	12
13G-03	鳥取県西部地震震源域と隣接する鳥根県東部地震空白域の地殻深部比抵抗構造とその対比に関する研究	塩崎一郎(鳥取大学工学部 土木工学科)	大志万直人	13	95,000	450,000	22
13G-04	木造建物群の並列結合による地震応答低減と耐震安全性向上	井戸田 秀樹(名古屋工業大学工学部)	中島正愛	13	900,000	480,000	7

課題番号	研究課題(プロジェクト)名	研究代表者	所内担当者	年度	研究員等旅費	校費	参加数
13G-05	災害リスクコントロールを目的とした都市構造の診断手法の開発	古川浩平(山口大学工学部 社会建設工学科)	岡田憲夫	13	440,000	270,000	3
				14	400,000	380,000	
13G-06	火山島重力測定における海洋潮汐影響量の評価と測定データの再評価	大久保 修平(東京大学地震研究所)	山本圭吾	13	420,000	300,000	7
				14	320,000	390,000	
13G-07	抗土圧構造物の地震時挙動と耐震性診断に関する研究	古関潤一(東京大学生産技術研究所)	関口秀雄	13	440,000	300,000	8
				14	480,000	300,000	
13G-08	流域水循環の動態の研究 -野洲川流域を対象とした集中観測とモデル開発-	立川康人(京都大学防災研究所)		13	310,000	300,000	16
				14	250,000	290,000	
13G-09	山地流域における降雨の流出と土砂動態-試験流域におけるモニタリングによるアプローチ	藤田正治(京都大学防災研究所)	澤田豊明	13	810,000	570,000	8
				14	670,000	580,000	
13G-10	人間活動に起因する環境変動を考慮した地域水系の健全性評価	東海明宏((独)産業技術総合研究所 化学物質リスク管理)	小尻利治	13	400,000	300,000	4
				14	350,000	170,000	
13G-11	地震波散乱理論を背景とした統計的グリーン関数のエンベロープ表現の研究	干場充之(気象庁地震火山部 地震津波監視課 精密地震観)	澤田純男	13	190,000	438,000	3
				14	1,300,000	350,000	
13G-12	洪積粘土の構造特性と大阪湾岸の埋立地における長期沈下メカニズム解明に関する研究	三村 衛(京都大学防災研究所)		13	750,000	580,000	14
13G-13	海面フラックスの季節変動に関する観測的研究	塚本 修(岡山大学理学部)	芹澤重厚	13	340,000	435,000	9
13G-14	災害対応従事者支援システムの開発	重川 希志依(富士常葉大学環境防災学部)	林 春男	13	700,000	580,000	8
13G-15	破砕性地盤における地すべり運動機構及び運動範囲予測法の研究	汪 発武(金沢大学工学部)	佐々恭二	13	700,000	580,000	8
13G-16	道路のり面危険度評価手法の研究	沖村 孝(神戸大学都市安全研究センター)	奥西一夫	13	630,000	300,000	8
13G-17	フィリピン海プレートの北限を探る	山口 寛(神戸大学理学部)	大志万直人	13	700,000	527,000	5
13G-18	台風の内部構造に関する調査・研究	林 泰一(京都大学防災研究所)		13	350,000	440,000	7
14G-01	泥火山・マッドダイアピルが引き起こす地盤災害のメカニズムとその対策	田中和広(山口大学 理学部)	千木良雅弘	14	680,000	480,000	6
14G-02	火山性地震・微動のデータベース作成と発生過程の比較研究	西村太志(東北大学大学院 理学研究科)	井口正人	14	810,000	410,000	15
14G-03	均質な地表面上での不均質なフラックス分布の測定に関する研究	樋口篤志(名古屋大学 地球水循環研究センター)	田中賢治	14	580,000	440,000	12
14G-04	高波浪時の大気海洋相互作用の観測研究	石川裕彦(京都大学防災研究所)		14	570,000	400,000	17

課題番号	研究課題(プロジェクト)名	研究代表者	所内担当者	年度	研究員等旅費	校費	参加数
14G-05	高粘性金属ダンパーによる無損傷化建築構造物の動的載荷実験	甲津功夫(大阪大学大学院工学研究科)	吹田啓一郎	14	360,000	350,000	6
14G-06	噴煙・地震の長期間同時モニタリングによる硫黄岳の脱ガス活動定量化の試み	松島喜雄(産業技術総合研究所 地球科学情報研究部門)	井口正人	14	780,000	250,000	7
14G-07	跡津川断層帯におけるクリープ活動の検証	福田洋一(京都大学大学院理学研究科)	伊藤 潔	14	570,000	380,000	7
14G-08	RC造連層耐震壁と杭基礎の地震時相互作用を考慮した終局時破壊機構の解明	田中仁史(京都大学防災研究所)		14	300,000	290,000	5
14G-09	都市域における宅地盛土斜面の地震災害予測	木村克己((独)産業技術総合研究所)	釜井俊孝	14	510,000	360,000	10
14G-10	衛星合成開口レーダーによる斜面変動検出の精度検証	福岡 浩(京都大学防災研究所)		14	150,000	240,000	2
14G-11	発展途上国の防災に資する防災人類学の基本的枠組みの構築	端 信行(京都橘女子大学)	河田恵昭	14	530,000	350,000	7
14G-12	京都盆地の構造と地盤災害ポテンシャル評価に関する研究	竹村恵二(京都大学大学院 理学研究科 附属地熱学研究施設)	三村 衛	14	520,000	350,000	11

附表6.4 研究集会(特定)

(金額単位:円)

課題番号	研究集会名:開催場所:開催日	研究代表者(所属機関)	所内担当者	経費配分額	校費	参加人数
12S-1	都市住空間における地震災害のリスク評価とマネジメント:京都大学防災研究所:平成12年12月15日(水)~16日(木)	鈴木祥之(京都大学防災研究所)		720,000	250,000	36
12S-2	21世紀の水防災研究を考えるー最近の水災害から見えてくることー:京都大学木質ホール:平成12年12月6日(水)	中川 一(京都大学防災研究所)		720,000	250,000	75
12S-3	十津川災害111周年記念集会ー斜面災害発生場所予測に向けてー:奈良県吉野郡十津川村周辺:平成12年10月19日(木)~21日(土)	千木良雅弘(京都大学防災研究所)		630,000	150,000	38
13S-1	地震・火山噴火活動の相関とトリガリング:京都大学化学研究所共同研究棟大セミナー室:平成13年7月17日(火)~7月18日(水)	橋本 学(京都大学防災研究所)		80,000	280,000	68
13S-2	都市域における防災・減災のための水循環システムに関する研究:京都大学防災研究所:平成13年7月30日(月)~12月8日(土)	萩原良巳(京都大学防災研究所)		800,000	270,000	36
14S-1	市民参加方式による安全町づくりのための情報提示・コミュニケーション技術の現状と課題:京都大学防災研究所:平成14年10月15日(火)~15年2月20日(木)	岡田憲夫(京都大学防災研究所)		700,000	210,000	25
14S-2	自然・文化遺産と地すべり災害軽減に関する研究集会:京都大学木質ホール:平成15年1月14日(火)~15日(水)	佐々恭二(京都大学防災研究所)		700,000	220,000	100

附表6.5 研究集会(一般)

(金額単位:円)

課題番号	研究集会:開催場所:開催日	研究代表者 (所属機関)	所内担当者	経費配分	校費	参加人数
12K-1	大空間構造に想定し得る被災の要因と対策: 日本建築学会会館(東京)	山田大彦 (東北大学未来 科学技術共同研 究センター)	諸岡繁洋	720,000	240,000	65
12K-2	火山ガス研究集会:薩摩硫黄島	平林順一(東京 工業大学草津白 根火山観測所)	石原和弘	720,000	160,000	46
12K-3	火山の浅部構造と火山流体:京都大学防災研 究所	鍵山恒臣 (東京大学地震 研究所)	井口正人	720,000	240,000	45
12K-4	伊豆半島の地殻活動に関連する電磁気現象 の研究:静岡県伊東市	茂木 透(北海 道大学大学院理 学研究科)	大志万直人	640,000	240,000	58
12K-5	土砂移動現象の地形学的解析と地形を考慮 した土砂移動現象予測手法:京都大学防災研 究所附属穂高砂防観測所	石川芳治 (京都府立大学 農学部)	澤田豊明	640,000	80,000	20
12K-6	構造物の非線形同定技術と健全度モニター システムの将来展望:京都大学防災研究所	佐藤忠信 (京都大学防災 研究所)		624,000	200,000	29
12K-7	文化遺産と地すべりに関する研究集会:京都 国際交流会館	山岸宏光(新潟 大学理学部)	佐々恭二	560,000	240,000	20
12K-8	精密地球計測技術に基づく長周期地球ダイ ナミクスの解明に関する研究集会:京都大学 防災研究所	今西祐一 (東京大学海洋 研究所)	古澤 保	350,000	160,000	38
12K-9	アジア地域の水門素過程及び水資源に関す る比較研究:京都大学防災研究所	岡 太郎 (京都大学防災 研究所)		456,000	280,000	65
12K-10	2000年琵琶湖プロジェクトシンポジウムー 第3ステージに向けてー:京都大学防災研 究所	中北英一 (京都大学防災 研究所)	田中賢治	360,000	120,000	24
12K-11	地震発生に至る地殻活動解明に関するシン ポジウム:京都大学防災研究所	梅田康弘 (京都大学防災 研究所)		420,000	240,000	57
13K-1	鳥取県西部地震災害シンポジウム:鳥取県 日野郡日野町文化センター:平成13年5月26 日(土)~	西田良平 (鳥取大学工学 部)	松波孝治	630,000	300,000	350
13K-2	マグマ活動と火山性地震・微動:国民宿舎 レインボー桜島:平成13年10月4日(木)~5 日(金)	西村太志 (東北大学大学 院理学研究所)	井口正人	800,000	285,000	48
13K-3	2001年琵琶湖プロジェクトシンポジウム:京 都大学防災研究所:平成14年2月27日(水)	田中賢治 (京都大学防災 研究所)		500,000	95,000	19
13K-4	地震発生準備過程の物理と観測ー最近の成 果と今後の課題:米子コンベンションセン ター:平成13年11月14日(水)~15日(木)	笠原 稔 (北海道大学院 理化学研究科)	梅田康弘	800,000	270,000	70
13K-5	最新の風洞実験法に関する比較研究ー Comparative study on the latest wind tunnel test:京都大学防災研究所:平成13年 12月21日(金)	野村卓史 (日本大学理工 学部)	河井宏允	770,000	260,000	67
13K-6	歴史的山地災害の統一ドキュメンテーショ ンのための国際ワークショップ:長野県白馬 村、王滝村(白馬プチホテル・バク):平成13 年8月30日(木)~9月1日(土)	諏訪 浩 (京都大学防災 研究所)		760,000	250,000	21
13K-7	フィリピン海スラブの沈み込みと島弧・背 弧の地球物理:京都大学化学研究所共同研究 棟:平成13年10月9日(火)~10日(水)	中西一郎 (京都大学大学 院理学研究科)	大見士朗	720,000	240,000	96
13K-8	ヒル谷試験流域の土砂流出環境を読む:京都 大学防災研究所穂高砂防観測所:平成13年10 月11日(木)~13日(土)	池田 宏 (筑波大学地球 科学系)	澤田豊明	720,000	80,000	24
13K-9	アジア地域における地域開発が水文循環に 及ぼす影響に関する研究:京大会館:平成13 年11月2日(金)~	岡 太郎 (京都大学防災 研究所)		500,000	220,000	44

課題番号	研究集会:開催場所:開催日	研究代表者 (所属機関)	所内担当者	経費配分	校費	参加人数
14K-1	国際水資源ダイナミクス—国際水紛争と水の貿易収支:京大会館:平成14年11月15日(金)～	池淵周一 (京都大学防災研究所)		440,000	260,000	60
14K-2	山間過疎地域における震災復興と生活再建に関するシンポジウム:鳥取県日野郡日野町文化センター:平成14年10月5日(土)～	北原昭男 (鳥取環境大学)	松波孝治	530,000	200,000	21
14K-3	盆地における霧の発生および維持機構とその予知予測に関する研究集会:京都大学防災研究所、広島県三次市	宮田賢二 (広島女子大学)	林 泰一	650,000	190,000	19
14K-4	プレート間カップリングの時空間変化に関する比較研究:京都大学化学研究所共同研究棟大セミナー室:平成14年11月26日(火)～27日(水)	松澤 暢(東北大学大学院理学研究科)	梅田康弘、大志万直人	720,000	130,000	29
14K-5	地震の始まりと終わり方:京都大学防災研究所	芝崎文一郎 (建築研究所国際地震工学センター)	James Jiro Mori	500,000	160,000	21
14K-6	変動水圧と水中地盤に関するシンポジウム:京都大学化学研究所共同研究棟大セミナー室:平成13年12月20日(金)～	名合宏之 (岡山大学環境理工学部)	高山知司	570,000	160,000	100
14K-7	地殻変動、地球ダイナミクスの観測とモデル計算の最近の成果、今後の課題:京都大学防災研究所:平成14年12月19日(木)～20日(金)	佐藤忠弘 (国立天文台地球回転研究系)	古澤 保	520,000	180,000	28
14K-8	地震発生域及びその周辺の電気伝導度構造の研究:京都大学防災研究所:平成15年2月1日(土)～2日(日)	山口 覚(神戸大学理学部)	大志万直人	400,000	70,000	50
14K-9	災害数理学の現状と将来展望:武蔵工業大学(東京都):平成14年10月10日(木)～11日(金)	佐藤忠信 (京都大学防災研究所)		550,000	170,000	23
14K-10	震源過程研究の最前線:関西セミナーハウス:平成14年9月14日(土)～16日(月)	加藤 護 (京都大学総合人間学部)	James Jiro Mori、入倉孝次郎	550,000	140,000	88
14K-11	流域の土砂流出環境を読む—工学と地形学の双方のアプローチから—:京都大学防災研究所穂高砂防観測所:平成14年11月7日(木)～9日(土)	眞板秀二 (筑波大学農林工学系)	澤田豊明、中川 一、里深好文	500,000	60,000	22
14K-12	治水と河川生態環境—川づくりはいかにあるべきか—:京都大学防災研究所:平成14年12月11日(水)～	綾 史郎(大阪工業大学)	中川 一	300,000	160,000	22

附表 6.6 リーダーシップ支援経費配分額内訳 (単位：千円)

		12年度	13年度
項・研究所	諸謝金	0	0
	職員旅費	998	1,000
	在外研究員旅費	0	726
	外国旅費	0	0
	研究員等旅費	223	222
	外国人教師等招聘帰国旅費	1,565	2,035
	校費	22,579	23,097
	計	25,365	27,080
項・国立学校	在外研究員旅費	0	0
合計		25,365	27,080

附表 6.7 科学研究費新規採択状況 (平成 12～13 年度)

	平成 12 年度				平成 13 年度			
	新規申請	新規採択	採択率	全採択率	新規申請	新規採択	採択率	全採択率
特定領域(A)	1	0	0.0		0	0		
特定領域(B)								
特定領域(C)					0	0		
基盤研究(A)	4	1	25.0	20.0	6	2	33.3	50.0
基盤研究(B)	39	12	30.8	42.9	39	6	15.4	25
基盤研究(C)	17	3	17.6	27.3	18	6	33.3	40.0
萌芽的研究	11	0	0.0	0.0	9	2	22.2	100
奨励研究(A)	12	4	33.3	44.4	10	6	60.0	60
国際学術研究	0	0			0	0		
地域連携	3	0	0.0	0.0				
特別研究促進	1	1	100.0	100	0	0		
合計	88	20	22.7	35.1	82	22	26.8	40.0
特別研究員		2						

全体採択率とは、公募全体の新規採択率（全分野）

灰色欄は該当年度募集なし

附表6.8 科研費

(金額単位：千円)

研究者名	研究種目	課題名	別	平成	金額
岡田憲夫	基盤研究B1	環境用水の需要を考慮した多目的ダムの費用配分法の開発－慣用的配分法とゲーム論的配分法の融合に	代表	11	410
				12	2,700
岡田憲夫	特定領域研究B2 (日米)	社会基盤システムの地震時性能規範評価法の開発	代表	11	5,500
				12	8,500
				13	9,250
				14	8,350
				15	8,200
岡田憲夫	基盤研究C2	過疎地域の活性化に関する実践研究	分担	11	1,700
				12	1,100
				13	800
岡田憲夫	基盤研究C2	離散選択方法モデルを用いた社会基盤整備の便益の信頼性評価方法の開発	代表	12	1,800
				13	1,600
岡田憲夫	外国人特別研究員 奨励費(張継権)	GISを用いた豪雨災害危険度の評価手法と災害対策支援システムの開発に関する研究	代表	13	1,200
岡田憲夫	基盤研究C2	災害危険度情報の提供による住宅立地の適正化に関する研究	分担	14	1,000
				13	1,700
亀田弘行	特定領域研究B1	日米共同研究による都市地震災害の軽減	代表	14	1,500
				12	70,000
亀田弘行	基盤研究B2	地震震時における道路交通システムの機能性能評価システムの開発	代表	13	71,100
				12	7,000
亀田弘行	基盤研究B2	RARMIS概念に基づく時空間GISの自治体・地域活動への導入に関する研究	代表	13	1,600
				14	5,800
鈴木祥之	基盤研究B1	京都盆地アレー地震観測による地盤震動評価と震害予測推定に関する研究	代表	10	4,600
				11	4,300
				12	3,500
鈴木祥之	特定領域研究B2	構造物のモニタリングと損傷度検出システム	代表	11	5,500
				12	6,600
鈴木祥之	地域連携推進 研究費2	理論的高精度強震動予測手法の開発と京都盆地における地震災害予測に関する基礎研究	分担	11	15,800
				12	16,900
鈴木祥之	基盤研究A1	木造建物の構造力学的解明と静的・動的性能評価法に関する研究	代表	13	13,500
				14	14,400
				15	12,200
鈴木祥之	基盤研究B1	近年の地震被害統計調査データに基づく建築物の地震リスク評価と表示	分担	13	2,800
				14	2,300
荻原良巳	基盤研究B1	都市域の水循環汚染リスクの経済的評価方法に関する研究	分担	13	
多々納裕一	基盤研究B1	環境用水の需要を考慮した多目的ダムの費用配分法の開発－慣用的配分法とゲーム論的配分法の融合に	分担	11	4,100
				12	2,700
多々納裕一	基盤研究C2	離散選択方法モデルを用いた社会基盤整備の便益の信頼性評価方法の開発	分担	12	1,800
				13	1,600
多々納裕一	基盤研究C2	災害危険度情報の提供による住宅立地の適正化に関する研究	代表	13	1,700
				14	1,500
林 康裕	基盤研究B1	京都盆地アレー地震観測による地盤震動評価と震害予測推定に関する研究	分担	10	4,600
				11	4,300
				12	3,500
林 康裕	基盤研究B1	台湾集集地震の震源域付近の地盤および構造物の動的挙動に関する実証的調査研究	分担	12	410
				13	310
林 康裕	基盤研究B1	近年の地震被害統計調査データに基づく建築物の地震リスク評価と表示	代表	13	2,800
					2,300
林 康裕	基盤研究A1	木造建物の構造力学的解明と静的・動的性能評価法に関する研究	代表	13	13,500
				14	14,400
				15	12,200
林 康裕	地域連携推進 研究費2	理論的高精度強震動予測手法の開発と京都盆地における地震災害予測に関する基礎研究	分担	12	16,900
				13	14,400
田中 聡	基盤研究B2	地震時における道路交通システムの機能性能評価システムの開発	分担	12	7,000
				13	16,000
田中 聡	基盤研究B2	RARMIS概念に基づく時空間GISの自治体・地域活動への導入に関する研究	分担	13	5,800
田中 聡	基盤研究B1	災害情報の「情報到達度」向上のための戦略の開発に関する研究	分担	13	5,000
入倉孝次郎	地域連携推進 研究費2	理論的高精度強震動予測手法の開発と京都盆地における地震災害予測に関する基礎研究	代表	12	16,900
				13	9,000
佐藤忠信	基盤研究B2	1999年台湾集集地震による社会基盤施設の被害要因分析と国際比較	代表	13	4,100
				14	2,500
				15	1,800

研究者名	研究種目	課題名	別	平成	金額
佐藤忠信	基盤研究B2	ひずみ記憶型センサーを用いた構造物自動損傷度検出システムの開発	代表	12	4,000
				13	2,600
				14	2,600
佐藤忠信	基盤研究B2	地震動の非定常位相特性のモデル化に関する研究	代表	13	3,500
				14	2,500
				15	2,300
田中仁史	基盤研究C2	高強度横拘束コンクリートの応力-歪み関係における寸法効果に関する実験的研究	代表	13	1,800
				14	1,900
中島正愛	基盤研究B2	地震入力を受ける鉄骨-骨組の完全崩壊再現実験システムの開発と検証	代表	11	10,400
				12	2,200
				13	1,200
中島正愛	基盤研究B2	鉄骨柱梁接合部の塑性変性能力と載荷速度・温度上昇・材質特性の変化の相関	代表	12	6,200
				13	2,600
中島正愛	萌芽的研究	鋼構造溶接接合部品質と建築生産プロセスとの相関分析	代表	13	700
				14	1,400
吹田啓一郎	基盤研究B	エネルギー吸収機能を有する接合要素を用いた高信頼性制振鋼構造システムの開発	分担	12	7,400
				13	5,200
吹田啓一郎	基盤研究C 2	溶接柱梁接合部の最大曲げ耐力に及ぼす鋼材と溶接金属の材料特性の影響	代表	13	1,800
				14	1,700
吹田啓一郎	基盤研究A	機械式接合システムによる鋼構造建築物の耐震性能・品質保証に関する総合的研究	分担	13	12,300
				14	12,200
				15	13,900
				16	2,700
岩田知孝	特定領域研究B2	都市域における破壊的強振動の高精度予測に関する研究	代表	12	5,800
				13	6,100
岩田知孝	基盤研究C	強震動データを用いたシナリオ地震に基づく強震動予測手法に関する基礎研究	代表	12	1,000
				13	1,200
岩田知孝	基盤研究B1	台湾集集地震の震源域付近の地盤および構造物の動的挙動に関する実証的調査研究	分担	12~13	
岩田知孝	基盤研究B	簡便かつ高精度なサイト特性評価に基づく定量的な地震入力評価法の開発	分担	12~13	
岩田知孝	地域連携推進研究費2	理論的高精度強震動予測手法の開発と京都盆地における地震災害予測に関する基礎研究	分担	11~13	
岩田知孝	基盤研究(国際)	複数の国際テストサイトにおける地震動への局地的影響評価	分担	11~13	
本田利器	奨励研究A	周波数依存型の減衰を与える時間積分法の開発	代表	12	1,200
				13	1,200
諸岡繁洋	奨励研究A	球形シェル構造の定常振動状態に於ける不安定領域の解明	代表	11	1,700
				12	600
嘉門雅史	基盤研究A1	廃棄物の地盤工学的有効利用とその環境影響評価手法の開発	代表	12	2,800
嘉門雅史	基盤研究B2	廃棄物処分に関わる地盤工学的問題と処分場設計の考え方に関する研究	代表	12	10,300
				13	2,200
三村 衛	基盤研究B2	直下型地震による水際線構造物の崩壊機構の解明	代表	11	10,000
				12	1,500
乾 徹	奨励研究A	環境リスク評価に基づく地盤汚染対策の最適化に関する研究	代表	13	1,500
乾 徹	基盤研究A1	廃棄物の地盤工学的有効利用とその環境影響評価手法の開発	分担	12	2,800
乾 徹	基盤研究B2	廃棄物処分に関わる地盤工学的問題と処分場設計の考え方に関する研究	分担	12	10,300
				13	2,200
諏訪 浩	基盤研究B	ジャワ・スマトラ三流域における総合的水・土砂管理のための水文・河川・海岸合同調査	分担	12	430
				13	460
佐々恭二	基盤研究B2	文化遺産地区における地すべり災害予測の研究	代表	11	3,500
				12	3,200
佐々恭二	基盤研究C2 (ユネスコ・日本)	地すべり危険度軽減と文化・自然遺産の保全に関する国際共同研究	代表	12	3,300
佐々恭二	基盤研究B2	非排水せん断特性と粒子破碎特性の計測に基づく流動性崩壊予測法の開発	代表	12	5,000
				13	3,900
				14	4,000
福岡 浩	基盤研究C2	RTK-GPSを用いた斜面定期健康診断システムの開発	代表	11	1,100
				12	1,300
				13	9,400
				14	1,900
福岡 浩	基盤研究B2	文化遺産地区における地すべり災害予測の研究	分担	11	3,500
				12	3,200

研究者名	研究種目	課題名	別	平成	金額
福岡 浩	基盤研究C2 (ユネスコ・日本)	地すべり危険度軽減と文化・自然遺産の保全に関する国際共同研究	分担	12	3,300
福岡 浩	基盤研究B2	非排水せん断特性と粒子破碎特性の計測に基づく流動性崩壊予測法の開発	分担	12	5,000
福岡 浩	萌芽的研究	人工衛星合成開口レーダーによる斜面変動の検出と監視	代表	13	1,100
釜井俊孝	基盤研究C2	都市域の宅地盛土斜面における地震災害予測図の作成	代表	14	1,000
高橋 保	基盤研究B2	山腹崩壊に伴う土石流の発生機構と流量規模予測の研究	代表	11	2,200
高橋 保	基盤研究B2	水系一貫した土砂配分システムの開発	代表	12	800
高橋 保	基盤研究C2	透過性砂防ダムの昨日評価と流域土砂管理に関する研究	代表	13	700
實 馨	基盤研究A2	水・人間・地球の相互作用を考慮した持続可能な水主現環境に関する国際水文学的研究	分担	12	1,000
實 馨	基盤研究A1	衛星同期集中/常時共同観測による水・熱循環過程のスケール効果解明に関する総合研究	分担	13	700
實 馨	基盤研究A1	東南アジア太平洋地域の水資源危機と対応戦略に関する国際共同研究	分担	10	5,200
實 馨	基盤研究B2	ジャワ・スマトラ三流域における総合的水・土砂管理のための水文・河川・海岸合同調査	分担	11	5,200
實 馨	基盤研究B2	分布型洪水流出予測システムの利用を前提とした治水計画手法の新たな展開	代表	12	5,000
實 馨	基盤研究B2	都市の水害脆弱性と水害の危機管理システムに関する研究	分担	10	18,200
實 馨	基盤研究A1	アジア太平洋地域における水資源緩急の評価・管理・対策に関する研究	分担	11	8,900
井上和也	基盤研究B2	都市の水害脆弱性と危機管理システムに関する研究	分担	12	4,800
立川康人	基盤研究B1	水文・水資源データベースの構築とそのネットワーク共用化体制の確立	分担	11	9,400
立川康人	奨励研究A	東南アジアモンスーン域大河川流域における大洪水発生可能性の予測	分担	12	9,400
立川康人	基盤研究B2	ジャワ・スマトラ三流域における総合的水・土砂管理のための水文・河川・海岸合同調査	代表	12	4,300
立川康人	基盤研究B2	分布型洪水流出予測システムの利用を前提とした治水計画手法の新たな展開	代表	13	4,600
戸田圭一	基盤研究B2	都市の水害脆弱性と危機管理システムに関する研究	代表	14	4,300
間瀬 肇	基盤研究B2	多方向不規則波造波装置を用いた実海域再現性に関する研究	代表	12	3,600
吉岡 洋	基盤研究A1	砕波混入気泡と気泡連行乱れによる砕波気液界面でのガス交換機構の実態解明	代表	13	900
吉岡 洋	地域連携推進研究費2	田辺湾における海水交換機構と赤潮の発生予測に関する研究	分担	12	3,600
井口敬雄	基盤研究A1	各種陸上生態系における炭素・水・熱フラックスの相互関係の微気象生態学的解析	分担	13	900
植田洋匡	基盤研究B2	大気境界層全層観測システムの開発と大気乱流の組織構造に関する研究	分担	14	1,000
植田洋匡	特定領域研究A1	アジア・太平洋域のエアロゾルの変動と放射への影響	代表	12	5,300
			分担(計画班、計4名)	13	2,600
				14	1,000
				11	35,300
				12	34,300

研究者名	研究種目	課題名	別	平成	金額
植田洋匡	基盤研究A2	インドネシア域における生物マス燃焼が及ぼす気候学的影響に関する調査的研究	分担 26名	11	8,400
植田洋匡	基盤研究C1	エアロゾルキャラクタリゼーション実験(ACE-Asia)計画の推進と国際対応	分担 22名	11	3,200
石川裕彦	特定領域研究B2	チベット高原大気エネルギー・水循環過程	代表	11	12,900
				12	10,700
				13	7,800
石川裕彦	基盤研究B2	大気境界層全層観測システムの開発と大気乱流の組織構造に関する研究	分担	12	8,300
				13	2,200
				14	1,000
石川裕彦	基盤研究A2	有明・八代海域における高潮ハザードマップ形成と干潟環境変化予測システムの構築	分担	13	
				14	
				15	
石川裕彦	基盤研究A2	車載型音波探査装置の開発試作とその気象学的適応に関する研究	分担	12	20,500
				13	5,000
				14	6,000
石川裕彦	基盤研究B2	バングラデシュ国における洪水災害発生の原因となる降雨特性の調査・研究	分担	12	5,200
				13	5,300
				14	2,900
堀口光章	基盤研究B2	大気境界層全層観測システムの開発と大気乱流の組織構造に関する研究	分担	12	8,300
				13	2,200
				14	1,000
堀口光章	特定領域研究B2	チベット高原大気エネルギー・水循環過程	分担	12	10,700
				13	7,800
堀口光章	基盤研究C2	大気境界層における乱流の空間構造その時間発展に関する研究	代表	13	2,200
				14	1,400
河井宏允	基盤研究B2	自然風中での高層建築縮尺模型まわりの流形相似性に関する研究	分担	12	1,800
				13	2,300
河井宏允	基盤研究C	超高層建築物の空力不安定振動に伴う崩壊機構に関する研究	代表	12	2,700
				13	600
丸山 敬	基盤研究B2	自然風中での高層建築縮尺模型まわりの流形相似性に関する研究	代表	12	1,800
				13	2,300
中川 一	基盤研究C2	透過性砂防ダムの昨日評価と流域土砂管理に関する研究	代表	12	1,000
				13	700
中川 一	基盤研究B2	山腹崩壊に伴う土石流の発生機構と流量規模予測の研究	分担	12	1,300
中川 一	基盤研究B2	ジャワ・スマトラ三流域における総合的水・土砂管理のための水文・河川・海岸合同調査	分担	12	4,300
				13	4,600
中川 一	基盤研究B	ベネズエラにおける土砂災害および現地適合型災害対策に関する研究	分担	13	3,500
中川 一	基盤研究B	水系一貫した土砂配分システムの開発	分担		
関口秀雄	萌芽的研究	移動境界問題としての液状化フロントの進展解析	代表	12	1,900
関口秀雄	基盤研究B2	波浪による海岸構造物周辺基盤の液状化・洗掘過程に関する研究	代表	13	9,600
澤田豊明	基盤研究C2	砂防ダムからの土砂流出とそれが河川環境に与える影響	分担	12	1,000
澤田豊明	基盤研究C2	透過性砂防ダムの昨日評価と流域土砂管理に関する研究	分担	12	1,000
				13	700
澤田豊明	基盤研究C1	音響法・映像法による土砂流出監視システムの開発研究	分担	12	600
				13	700
林 泰一	基盤研究A2	車載型音波探査装置の開発試作とその気象学的適応に関する研究	代表	12	20,500
				13	5,000
				14	600
林 泰一	基盤研究B2	バングラデシュ国における洪水災害発生の原因となる降雨特性の調査・研究	代表	12	20,500
				13	5,300
				14	2,900
山下隆男	地域連携推進研究費2	田辺湾における海水交換機構と赤潮の発生予測に関する研究	代表	11	15,500
				12	8,100
				13	8,800
馬場康之	奨励研究A	浅海域における波浪を考慮した海面抵抗の評価法に関する研究	代表	13	1,400
				14	1,100
加藤 茂	奨励研究A	風の影響を考慮した3次元広域海浜流モデルの開発とその適用に関する研究	代表	12	1,100
加藤 茂	奨励研究A (若手研究B)	広域漂砂を考慮した海浜変形予測モデルに関する研究	代表	13	1,000
				14	800
加藤 茂	地域連携推進研究費2	田辺湾における海水交換機構と赤潮の発生予測に関する研究	分担	12	8,100
				13	8,800

研究者名	研究種目	課題名	別	平成	金額
加藤 茂	基盤研究B2	波浪浅水変形海域における大気乱流・波浪・広域海浜流相互作用系に関する研究	分担	14	7,200
芹沢重厚	地域連携推進研究費2	田辺湾における海水交換機構と赤潮の発生予測に関する研究	分担	12	8,100
				13	8,800
橋本 学	基盤研究C2	断層系の力学的相互作用が作り出す地震活動の多様性に関する研究	代表	10	900
				11	600
				12	500
				13	1,000
橋本 学	基盤研究B1	中央構造線断層帯の深部構造と現在の運動様式に関する測地学的研究	分担	10	3,300
				11	2,800
				12	3,300
MORI. James Jiro	基盤研究B2	活動的な活火山ラバウル山カルデラのマグマの通道の検査	代表	12	8,800
				13	2,600
MORI. James Jiro	基盤研究C2	17桁におよぶ地震エネルギーの研究	代表	12	1,700
				13	600
大志万直人	国際学術研究	北アナトリア断層帯における活断層深部構造の研究	分担	12	5,310
大志万直人	基盤研究A (海外学術)	北アナトリア断層帯西部域における地震発生ポテンシャル評価に関する研究	分担	13	16,800
大志万直人	基盤研究B	中国・四国地方の地震発生層付近の電気伝導度構造	分担	13	4,820
西上欽也	基盤研究A	野島断層における繰り返し注水実験	分担	12	
澁谷拓郎	基盤研究B	レシーバ関数アレー解析による日本列島下の地殻・上部マントル地震波不連続面の研究	分担	11~13	
澁谷拓郎	創成的基礎研究	海半球ネットワーク：地球内部を覗く新しい目	分担	8~12	
中村佳重郎	基盤研究B1	脈動観測資料と重力データの併合処理による、都市域基盤構造の研究	分担	12	2,200
				13	1,300
石原和弘	特別推進研究	有珠算2000年噴火と火山防災に関する総合的研究	分担	12	2,000
				13	1,170
神田 径	奨励研究A	火山体浅部の蓄熱状況と全磁力変化の定量化に関する研究	代表	12	1,300
神田 径	基盤研究B2	群列時間領域電磁法による火山体内部の状況監視システム(ACTIVE)の開発	分担	12	900
				13	
池淵周一	基盤研究A	水・人間・地球の相互作用を考慮した持続可能な水主現環境に関する国際水文学的研究	代表	12	5,000
池淵周一	基盤研究B2	短時間降雨予測手法に基づく洪水制御システムの開発	代表	12	2,800
				13	1,800
池淵周一	基盤研究A1	アジア太平洋地域における水資源環境の評価・管理・対策に関する研究	代表	13	14,040
竹門康裕	基盤研究A	長良川河口堰が汽水域生息場の特性に与えた影響に関する研究	分担	13	1,260
				14	1,100
田中賢治	奨励研究A	中国大陸農耕地における水・熱収支の推定と大気陸面相互作用	代表	11	1,700
				12	500
田中賢治	奨励研究A	GMSデータによる土壌水分量データ同化に関する研究	代表	13	1,300
				14	500
田中賢治	特定領域研究B2	亜熱帯・温帯エネルギー・水循環過程	分担	11	35,100
				12	28,100
				13	19,000
田中賢治	基盤研究A1	衛星同期集中常時共同観測による水・熱循環過程のスケール効果解明に関する総合的研究－琵琶湖プロジェクト第2ステージ	分担	10	18,200
				11	8,900
				12	4,800
田中賢治	基盤研究A1	衛星同期集中常時共同観測による琵琶湖流域水・熱・物質循環過程の解明に関する総合的研究－琵琶湖プロジェクト第3ステージ	分担	13	14,400
				14	12,600
				15	8,100
田中賢治	基盤研究B	高精度全球土壌水分分布の再解析と降水予測へのインパクト数値実験	分担	12	4,200
				13	4,200
岡 太郎	基盤研究B2	地下ダム設計・施工・運用管理法に関する研究	代表	10	6,100
				11	4,100
				12	2,200
岡 太郎	基盤研究A2	バングラデシュ国における氾濫湖の消長に関する気象・水文学的研究	代表	11	5,100
				12	4,600
				13	4,800
城戸由能	基盤研究C1	地域連携による循環型社会構築のため生活行動関連の環境資源・環境負荷の計量・評価	代表	12	1,600
				13	1,000
				14	1,000
城戸由能	基盤研究A2	バングラデシュ国における氾濫湖の消長に関する気象・水文学的研究	分担	12	4,600
				13	4,800
浜口俊雄	奨励研究A	実用的な地下ダム湖の管理運営手法の開発	代表	12	1,500
				13	700

研究者名	研究種目	課題名	別	平成	金額
浜口俊雄	基盤研究A	農用ダムにおける情報化施工・管理・供用手法の開発	分担	12	2,300
				13	7,000
小尻利治	基盤研究B2	バーチャルリアリティによる貯水池の高水・低水連続操作支援システムのモデル化	代表	12	1,100
小尻利治	基盤研究A2	水・人間・地球の相互作用を考慮した持続可能な水資源環境に関する国際水文学研究	分担	12	5,000
小尻利治	基盤研究B2	短時間降雨予測手法に基づく洪水制御システムの開発	分担	12	2,800
				13	1,800
小尻利治	基盤研究A	アジア太平洋地域における水資源環境の評価・管理・対策に関する研究	分担	13	14,040
河田恵昭	基盤研究B2	プレート境界型巨大地震災害に対する広域危機管理システムに関する研究	代表	12	2,800
河田恵昭	特定領域研究B2	都市地震災害過程のモデル化と総合的な損失の定量化	代表	12	5,800
				13	6,100
河田恵昭	研究成果公開促進費	自然災害資料データベース	分担	12	4,900
林 春男	国際学術	都市巨大地震災害の社会科学研究	代表	12	3,200
林 春男	特別研究員奨励費	都市直下地震の予知と防災	代表	12	8,000
林 春男	特定領域研究B2	マルチメディアによる地震災害の事後対応過程の検討	分担	12	600
				13	600
林 春男	特別研究促進費	平成13年芸予地震による都市地震災害に関する総合的調査研究	分担	13	200
田中哮義	基盤研究B2	市街地火災に於ける風下側の熱気流性状の予測に関する研究	代表	12	3,000
				13	1,700
赤松純平	基盤研究B1	脈動観測資料と重力データの併合処理による都市域基盤構造の研究	代表	13	1,300
高橋智幸	奨励研究A	歴史津波を解析するための津波堆積物の評価手法の開発	代表	12	1,600
				13	500

附表6.9 公募研究費

(金額単位：千円)

研究者名	種別	研究種目	研究課題名	別	年度	金額
岡田憲夫	共同研究	電力中央研究所	余剰変化に基づく地震時需要家被害の計量化法の開発	代表	13	500
岡田憲夫	共同研究	防災科学技術研究所	社会システムの災害に対する強さに関するリスク分析	代表	13~17	60,000
岡田憲夫	共同研究	科学技術振興調整費(EQTAP)	防災都市診断支援システム及び地理情報システムの開発	代表	13	7,076
岡田憲夫	公募研究	トヨタ財団	過疎地域における住民自治力の自発的成長システムに関する実践的研究	代表	11~13	2,168
岡田憲夫	公募研究	河川環境管理財団・河川整備基金助成事業	河川の環境保全を含む共同整備事業の費用配分制度に関する研究	代表	11	1,000
					12	600
岡田憲夫	公募研究	関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団	安全性診断を考慮した都市インナー地域における木造老朽家屋の計画的更新に関する研究	代表	12	2,000
					13	1,200
鈴木祥之	共同研究	(財)京都伝統建築技術協会	「真宗本願寺等御修復の為の事前調査業務」のうち「各建物耐震診断」の為の予備調査	代表	12	7,000
鈴木祥之	共同研究	損害保険料率算定会	住宅の耐震性能評価方法に関する調査研究	代表	13	9,000
多々納裕一	共同研究	電力中央研究所	余剰変化に基づく地震時需要家被害の計量化法の開発	分担	13	500
多々納裕一	共同研究	防災科学技術研究所	社会システムの災害に対する強さに関するリスク分析	分担	13~17	60,000
多々納裕一	共同研究	科学技術振興調整費(EQTAP) 理化学研究所	防災都市診断支援システム及び地理情報システムの開発	分担	13	7,076
					12	9,100
多々納裕一	公募研究	河川環境管理財団・河川整備基金助成事業	河川の環境保全を含む共同整備事業の費用配分制度に関する研究	分担	11	1,000
					12	600
多々納裕一	公募研究	関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団	安全性診断を考慮した都市インナー地域における木造老朽家屋の計画的更新に関する研究	代表	12	2,000
					13	1,200
林 康裕	共同研究	(財)京都伝統建築技術協会	「真宗本願寺等御修復の為の事前調査業務」のうち「各建物耐震診断」の為の予備調査	分担	12	7,000
林 康裕	共同研究	損害保険料率算定会	住宅の耐震性能評価方法に関する調査研究	分担	13	9,000
林 康裕	公募研究	関西エネルギー・リサイクル科学研究振興財団	建築物被害状況の多面的記述と復旧ボトルネックの分析	代表	13	2,700
林 康裕	公募研究	大林都市研究振興財団	地域の木構造・住文化を活かした震災後の生活復興支援策の研究	代表	13	1,500
入倉孝次郎	公募研究	特別研究員奨励費	強震動予測のための先端的手法の開発	代表	11	1,000
					12	800
入倉孝次郎	公募研究	特別研究員奨励費	地震動に対する地盤の非線形応答	代表	12	1,000
中島正愛	公募研究	鹿島学術振興財団研究助成金	直下型地震において免震構造物が被る最大変形とその予測	代表	10~12	4,000
佐々恭二	共同研究	受託研究	地盤災害の抑止技術の開発(平成11~15年度)	代表	11	3,428
佐々恭二	公募研究	研究開発機構	地震時地盤崩壊災害発生機構	代表	8	3,000
奥西一夫	公募研究	総合防災科学分野	急傾斜地災害に対するエネルギー輸送ラインの安全性確保に関する研究	代表	13	2,500
奥西一夫	公募研究	アジア地域重点学術研究助成	中国四川省深山の景勝地九寨溝における環境動態研究	代表	13	1,980
高橋 保	共同研究	民間等共同研究	河川舟運のための航路維持に関する研究	代表	13	
井上和也	公募研究	研究助成	都市水害に関わる流域モデルの構築	代表	12	950
					12	7,331
高山知司	公募研究	受託研究(運輸施設整備事業団)	高潮・高波の推算技術の高度化と防災に関する基本的研究	代表	13	5,580
					14	4,909
					9~10	1,900
立川康人	公募研究	河川情報センター・研究開発助成	河川水位実時間予測手法の構成に関する研究	代表	9~10	1,900
丸山 敬	共同研究	産学連携等研究費	年平均風速期待値の予測方法に関する研究	代表	12	500
					13	500
丸山 敬	公募研究	能村膜構造技術振興財団・助成金	膜構造物に加わる風荷重に対する自然風の乱流性状の影響に関する研究	代表	13	2,000

研究者名	種別	研究種目	研究課題名	別	年度	金額
中川 一	共同研究	区分B	河川舟運のための航路維持に関する研究	代表	13	3,000
中川 一	公募研究	運輸施設整備事業団	運輸分野における基礎的研究推進制度、高潮・高波の推算技術の高度化と防災に関する基礎的研究(平成12~14年度)	分担	12	8,100
					13	6,600
中川 一	公募研究	CREST	社会変動と水循環の相互作用評価モデルの構築(平成13~17年度)	分担	13	48,600
中川 一	公募研究	振興調整費	都市複合空間水害の総合減災システムの開発に関する研究(平成12~15年度)	分担	12	29,879
					13	37,087
澤田豊明	公募研究	河川環境管理財団・河川整備基金助成事業	山地河道における土砂動態観測システム	分担	12	2,000
山下隆男	公募研究	(財)平和中島財団外国人研究者等招致	Beach Restoration in Japan's Coasts : Feasibility Study on Soft Beach Formation by Sand-Fill	代表	13	1,860
山下隆男	公募研究	京都府環日本海交流促進研究助成金	日本海沿岸の砂浜海岸の防災と環境保全に関する日韓共同研究	代表	13	600
城戸由能	公募研究	日産科学振興財団	自然-人間系,水分・水質循環の共同集中観測と予測モデル開発(平成12~14年度)	分担	13	100
					14	100
友杉邦雄	公募研究	河川環境管理財団・河川整備基金助成事業	試験研究、地球温暖化の影響を考慮した流域環境評価と総合流域管理の策定(平成11~12年度)	分担	12	200
河田恵昭	共同研究	受託研究・産学連携等研究費	都市型水害に関するシミュレーション解析(平成13年12月20日~14年3月31日)	代表	13	105

附表6.10 大型設備一覧

部門・センター	設置年度		備考
①総合防災研究部門	7	建物応答制御装置	
	7	分散並列型強震応答実験装置	
②地震災害研究部門	7	加速式衝撃せん断試験システム	
③地盤災害研究部門	62	遠心力載荷装置	
	7	遠心力動的実験設備	
	7	斜面防災調査施設	
	7	地震時地すべり再現試験機	
④大気災害研究部門	54～55	境界層風洞実験装置	
	元	人工衛星受画装置	
	7	有毒ガス拡散予測システム	
⑤災害観測実験センター	58	水理実験制御解析システム	
	5	水理画像処理システム	
	7	水理構造物3次元強震動実験装置・計測器	
⑥地震予知研究センター	56～58	地殻活動総合観測システム	
	57～58	地震予知データ流通設備	
	58～59	移動観測班設備	
	60	地震観測テレメタリング設備	
	62	超高性能地震波観測システム	
	62	地殻活動総合観測線設備	
	62	地震波テレメータ装置	
	元	内陸地震総合観測設備	
	59	地震データ処理交換システム	理学部より
	62	岩石構造解析システム	〃
	62	岩石破壊実験装置	〃
	63	地震波形データ解析システム	〃
	2～4	地震データ・インテリジェント化設備	
	5	地震波形データ総合解析装置	
	5	多点同時地震観測システム	
	5	地震総合解析システム	
	5	総合観測システム	
	5	岩石破壊実験データ収録装置	
	6～7	インテリジェント化高精度地震観測データ伝送システム	
	6	GPS地殻変動観測システム	
	7	活断層帯電磁氣的構造探査装置	
	7	テレメタリング地震観測システム	
	7	地震観測データ交換・流通関係設備	
	8	衛星通信テレメタリング地震観測設備	
	11	強振動波形ネットワーク装置	
	11	強振動基準観測設備	
	⑦火山活動研究センター	56	赤外線走査装置
54～58		広域火山観測用データ集録装置	
58		自動データ高速処理制御装置	
元		特定火山集中総合観測解析装置	
2～3		火山活動総合リアルタイム判定処理設備	
4		火山活動総合判定装置	
5		霧島火山帯変動観測装置	
5		火山岩岩石磁気測定装置	
6		火山帯複合観測データ取込装置	
12		火山性地震基準観測テレメータシステム	
12		広帯域地震観測システム	

附表6.11 大型設備等を使つての共同研究一覧

研究者名		研究施設(設備)名	研究課題	実施機関	役割	期間
鈴木祥之	国内	強震応答実験装置	伝統軸組木造の実大振動実験	日本建築学会特別研究委員会、京都大学防災研究所	委員長	平成11年4月～13年3月
鈴木祥之	国内	強震応答実験装置	2階建軸組木造住宅の実大振動実験	日本建築学会特別研究委員会、京都大学防災研究所	委員長	平成11年4月～13年3月
奥西一夫	国内	斜面防災調査設備	兵庫県南部地震後の六甲山地の災害ポテンシャルの変化に関する研究		実施責任者	平成8～13年
河井宏允	国内		超高層建築物の空力不安定振動に伴う崩壊機構に関する研究	京都大学	研究代表者	平成12～13年
河井宏允	国内	大型境界層風洞	風洞実験の比較研究	UJNR	メンバー	平成13年
中川 一	国内	宇治川オープンラボラトリー内河道部水路(長さ215m、幅7.5m)	河川舟運のための航路維持に関する研究、施設利用を伴う共同研究(区分B)	京都大学防災研究所、河川環境管理財団		平成13～14年度
山下隆男	国内	大湊波浪観測所T型観測栈橋	「波浪浅水変形海域における大気乱流・波浪・広域海浜流相互作用系に関する研究」	岐阜大学、岡山大学		
山下隆男	国内	大湊波浪観測所T型観測栈橋	観測栈橋を用いた大気-海洋間のCO2の交換量の測定	岡山大学、九州大学、岡山理科大学		
山下隆男	国内	白浜海象観測所高潮観測塔	高潮・高波の推算技術の高度化と防災に関する基礎的研究	国土交通省空港港湾研究所		
山下隆男	国内	白浜海象観測所高潮観測塔	田辺湾における海水交換機構と赤潮の発生予測に関する研究	近畿大学、東京水産大学		

附表 6.12 図書室(資料室)に関するデータ

		平成 12 年度				平成 13 年度			
		学生	教職員	その他	合計	学生	教職員	その他	合計
貸出利用状況	貸出者数	670	277	208	1,155	570	236	178	984
	図書・雑誌等貸出冊数	1,165	482	362	2,009	886	366	276	1,528
文献複写利用状況	文献複写利用者数				240				273
	文献複写枚数				4,606				5,454

		平成 12 年度			平成 13 年度		
		和書	洋書	合計	和書	洋書	合計
年間受入図書冊数	購入	20	140	160	22	88	110
	寄附・その他	0	1	1	0	0	0
	合計	20	141	161	22	88	110
年間雑誌購読種類数		168	197	365	161	193	354
年間購入新聞種類数		0	0	0	0	0	0

附表 6.13 データベース(1)作成・公開状況

データベース名	公開方法
木構造実験データベース	一般公開
全国地震データ等利用系システム	インターネット公開
バングラデシュ国の水文観測結果のデータベース	全国共同研究者に公開
GAME-HUBEX および GAME-AAN のデータベース	国内関係研究者に公開
山頂噴火自動警報システム	国内関係研究者に公開
桜島の火山性地震・爆発のデータベース	国内関係研究者に公開
噴火ビデオ	国内関係研究者に公開
SAIGAI データベース	一般公開

附表 6.13 データベース(2)作成の前提となっている情報蓄積状況・提供状況

蓄積情報名	提供状況
木造軸組の耐震性能評価実験で得られた実験データ	CD-ROMで公開、 ホームページ開設予定
地震に関する蓄積情報	国内関係研究者に公開
1995年5月よりバングラデシュ北東部で実施している水文観測結果	CD-ROM化して、全国及び バングラデシュ共同研 究者に公開
琵琶湖プロジェクト常時熱収支観測(森林・水田・湖面・都市)、 集中観測データの蓄積	プロジェクト関係者
ハルタ山観測坑道における傾斜計および伸縮計記録	鹿児島地方気象台
	国土交通省
	大隈工事事務所
	日本航空
桜島火山中域および広域火山観測網の地震計測データ	共同研究機関
桜島火山の噴火映像	国内外放送局
	政府研究機関
	高等学校、中学校など
自然災害資料データベース	一般公開

附表 6.14 研究支援組織

		12年度	13年度
定員内	教務職員	0	0
	技術職員	30	29
	合計	30	29
非常勤職員	事務補佐員(日々)	2	2
	事務補佐員(時間)	41	38
	技術補佐員(日々)	2	1
	技術補佐員(時間)	6	3
	非常勤研究員(COE)	8	6
	研究支援推進員	7	8
	リサーチ・アシスタント	18	23
	合計	84	81

附表 6.15 遠隔地職員人数表

平成14年4月1日現在

	教授	助教授	助手	技官
災害観測実験センター				
大湊波浪観測所	0	1(1)	0	1
穂高砂防観測所	0	1	0	1
宇治川水理実験所(宇治川オープンラボラトリー)	1	1	3	1
白浜海象観測所	0	0	2(1)	0
潮岬風力実験所	0	1(1)	0	1
徳島地すべり観測所	0	1	0	0
地震予知研究センター				
上宝観測所	0	1(1)	0	2
北陸観測所	0	0	0	0
逢坂山観測所	0	0	0	0
屯鶴峯観測所	0	0	1	1
鳥取観測所	0	0	1(1)	1
宮崎観測所	0	0	1	1
阿武山観測所	0	0	0	1
徳島観測所	0	0	1	1
火山活動研究センター				
桜島火山観測所	1	1	4	1

* 括弧内は人数うち宇治勤務数

※教育改善推進費(学長裁量経費)は平成12~13年度は配当なし